



平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成27年2月9日

上場会社名 株式会社リボミック 上場取引所 東
 コード番号 4591 URL http://www.ribomic.com/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 義一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理部長 (氏名) 宮崎 正是 TEL 03 (3440) 3303
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の業績（平成26年4月1日～平成26年12月31日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	事業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	425	—	71	—	66	—	61	—
26年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	5.43	4.72
26年3月期第3四半期	—	—

- (注) 1. 平成26年6月28日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っておりますが、当事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。
2. 平成26年9月25日に東京証券取引所マザーズ市場に上場しているため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は新規上場日から当第3四半期会計期間末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。
3. 当社は、第3四半期の業績開示を当事業年度より行っているため、平成26年3月期第3四半期の実績及び増減率は記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	3,375	3,299	97.7
26年3月期	492	353	71.9

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 3,299百万円 26年3月期 353百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	—	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成27年3月期の業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	事業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	508	236.5	32	—	50	—	45	—	4.01

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 平成26年6月28日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っておりますが、当事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期3Q	12,664,800株	26年3月期	10,577,800株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	—株	26年3月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期3Q	11,350,335株	26年3月期3Q	—株

- (注) 1. 当社は、平成26年3月期第3四半期については、四半期財務諸表を開示していないため、「期中平均株式数（四半期累計）」を記載しておりません。
2. 平成26年6月28日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っておりますが、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して株式数を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しておりません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、継続的な政府主導による経済政策や、日本銀行の金融政策により、設備投資や雇用情勢等にも改善の兆しや景気の緩やかな回復が見られています。しかしながら、消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動により個人消費に弱い動きが見られ、加えて、円安による影響も懸念され先行きは不透明な状況となっています。

このような状況の中で、当社は自ら構築した、アプタマー創薬に関する総合的な技術や知識、経験、ノウハウ等からなる、創薬プラットフォーム「RiboARTシステム」を活用して、各パイプラインの研究開発の進捗を図るとともに、その新規用途や新規テーマの探索に努めてまいりました。

自社創薬では、RBM004(抗NGFアプタマー)に次ぐライセンス候補品目としてRBM007(抗FGF2アプタマー)を選定しております。本アプタマーの適応疾患として、難治性の骨疾患や抗体不相応の関節疾患、癌性疼痛（特に癌の骨転移に伴うもの）、高齢者の失明の原因ともなりうる加齢黄斑変性症等を想定しており、これらの適応疾患に取り組む国内外の製薬企業とライセンスに向けた交渉を積極的に進めております。

また、既存のテーマに続く自社創薬のひとつとして、糖尿病性網膜症やアトピー性皮膚炎の悪化や慢性化の原因タンパク質として考えられている「ペリオスチン」を標的としたアプタマーの基礎・探索研究を進めてまいりました。その結果、前臨床試験を進めることが可能な新規医薬品候補物の特定に成功し、本テーマについて開発コード番号「RBM008」を設定いたしました。当社は、本テーマについて更に研究開発を推進し、糖尿病性網膜症及び重症化し現行の治療薬で満足すべき治療効果のあげられない重症アトピー性皮膚炎を適応疾患とした治療薬としての開発を進めてまいります。

さらに、RBM008に続く品目の絞り込みについても、多くの候補品の中から、市場性や競合状況等を勘案し進めております。

また、平成26年4月に藤本製薬株式会社にライセンスしたRBM004に関する物質特許について、欧州での登録許可を得ました。これにより、RBM004の欧州市場での競争優位性を高めることとなります。

共同研究では、大塚製薬株式会社との血液疾患を対象としたRBM002、及び線維症を対象としたRBM003に係る共同研究契約の期間を平成27年12月31日までの1年間延長いたしました。本契約期間の延長により、当社は引き続き研究支援費を受け取ることとなります。

また、平成26年3月より開始した大正製薬株式会社との共同研究も順調に推移しております。

なお、自社創薬及び共同研究のパイプラインのうち、基礎・探索研究段階を終え前臨床試験に進んでいるプロジェクトは下記のとおりです。

研究開発形態	Project No.	標的名	開発中の適応症	基礎・探索研究	前臨床試験			臨床試験	備考 (追加可能な適応疾患等)
					<i>in vitro</i> / <i>in vivo</i> 試験	子備毒性試験	GLP試験	第Ⅰ相	
共同研究開発	RBM001	Midkine	免疫・炎症性疾患						
共同研究開発	RBM002	非開示	血液疾患						
共同研究開発	RBM003	非開示	線維症						
自社開発 (藤本製薬へライセンス・アウト済)	RBM004	NGF	疼痛						
自社開発	RBM005	HMGB1	敗血症						循環器疾患 他
			線維症						
自社開発	RBM006	Autotaxin	肺線維症						癌、癌性疼痛 他
自社開発	RBM007	FGF2	骨疾患						癌、リウマチ 他
			癌性疼痛						
			線維症						
			加齢黄斑変性症						
自社開発	RBM008	Periostin	糖尿病性網膜症						アトピー性皮膚炎 他

当社は、平成26年11月1日付で、探索研究部に「iPSプロジェクト室」を設置し、「RiboARTシステム」を含むアプタマーに関する当社の技術をiPS細胞（人工多能性幹細胞）の実用化（例えばiPS細胞から分化した細胞の純化）に応用する為の研究開発に着手しました。

本「iPSプロジェクト室」は、iPS細胞に関する事業や研究を行っている製薬企業や大学等との連携に向けた活動、「純化」対象とする分化細胞の選定、開発済みアプタマーのiPS細胞実用化への応用可能性の調査などを進めております。

さらに、東京大学医科学研究所に平成24年4月に開設した社会連携講座（「RNA医科学」社会連携研究部門）との連携のもと、新規な技術開発を引き続き推進しております。

これらの結果、当第3四半期累計期間において、RBM004に係るライセンス収入、及び製薬企業との共同研究収入等による事業収益は425百万円、事業費用として研究開発費は211百万円、販売費及び一般管理費は142百万円計上し、営業利益は71百万円となりました。

また、営業外収益として共同研究先からの核酸合成等に係る実費補填にあたる受取研究開発費18百万円（当第3四半期会計期間の受取研究開発費は6百万円）、為替相場の変動に伴う為替差益2百万円（当第3四半期会計期間の為替差益は0百万円）等で21百万円、営業外費用として東京証券取引所マザーズ市場への上場に伴う株式公開費用8百万円、及び新株発行に伴う株式交付費18百万円（当第3四半期会計期間の株式交付費は9百万円）で26百万円計上しました。

これにより、経常利益は66百万円、四半期純利益は61百万円となりました。

なお、当社は創薬事業及びこれに付随する事業を行う単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

（2）財政状態に関する説明

① 資産の部

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べて2,883百万円増加し、3,375百万円となりました。これは、現金及び預金が1,349百万円、有価証券が1,599百万円、前払費用が14百万円増加した一方で、売掛金が42百万円、未収入金が13百万円減少したこと等によるものです。なお、当第3四半期会計期間末において保有している有価証券は、新株発行により調達した資金を、研究開発への充当時期まで、適切な格付けを得た安全性の高い金融商品で運用することを目的として取得したものです。

② 負債の部

当第3四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べて62百万円減少し、76百万円となりました。これは、その他が22百万円増加した一方で、前受金が81百万円、未払金が13百万円減少したこと等によるものです。

③ 純資産の部

当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べて2,945百万円増加し、3,299百万円となりました。これは、資本金が1,442百万円、資本剰余金が1,441百万円、利益剰余金が61百万円増加したことによるものです。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年3月期の業績予想につきましては、平成26年9月25日付の「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」で公表しました通期の業績予想から変更ありません。

2. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	330,965	1,680,636
売掛金	70,308	28,032
有価証券	-	1,599,262
貯蔵品	5,725	2,802
前払費用	3,385	17,976
未収入金	22,161	8,400
その他	10,552	28
流動資産合計	443,097	3,337,140
固定資産		
有形固定資産	34,884	24,142
無形固定資産	496	322
投資その他の資産	14,124	14,073
固定資産合計	49,505	38,538
資産合計	492,602	3,375,678
負債の部		
流動負債		
未払金	28,489	14,819
未払費用	5,891	8,799
未払法人税等	3,910	11,414
前受金	99,000	18,000
その他	1,372	23,386
流動負債合計	138,665	76,419
負債合計	138,665	76,419
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,422,421	2,864,478
資本剰余金	1,395,921	2,837,578
利益剰余金	△2,464,404	△2,402,798
株主資本合計	353,937	3,299,258
純資産合計	353,937	3,299,258
負債純資産合計	492,602	3,375,678

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
事業収益	425,577
事業費用	
研究開発費	211,512
販売費及び一般管理費	142,447
事業費用合計	353,959
営業利益	71,618
営業外収益	
受取研究開発費	18,346
その他	3,061
営業外収益合計	21,407
営業外費用	
株式交付費	18,198
株式公開費用	8,780
営業外費用合計	26,978
経常利益	66,047
税引前四半期純利益	66,047
法人税等	4,441
四半期純利益	61,606

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成26年5月12日付で、藤本製薬株式会社から第三者割当増資の払込を受けました。これにより、資本金及び資本剰余金がそれぞれ150,000千円増加しております。

また、当社は、平成26年9月25日付で東京証券取引所マザーズ市場に上場いたしました。この上場にあたり、平成26年9月24日を払込期日とする有償一般募集（ブックビルディング方式による募集）による新株発行により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ1,268,220千円増加しております。

さらに、新株予約権の権利行使により、資本金が23,837千円、資本剰余金が23,437千円増加しております。

この結果、当第3四半期会計期間末において資本金が2,864,478千円、資本剰余金2,837,578千円となっております。